

ハワイツアーでお客さまも実感。すべての人に自由な旅を提案すべく、ジャルパックが推進する、アクセシブルツアーの魅力

ジャルパックでは、年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが気兼ねなく楽しめる旅の推進に、日々取り組んでいます。



写真：ハワイ州観光局



写真：アラモアナビーチサーフレッスン

バリアフリールームの一例。写真はシェラトン・ワイキキ。



1. サーフィン体験は車いすをご利用の方にとっても大きなチャレンジ。初めての波乗りには喜びがこぼれる。2. シーライフパークでイルカと触れ合う。車いすに乗ったままでOK。



3. 専用の車いすでビーチを堪能。海の青さに心奪われる。4.5. スリースター・サンセット・ディナー&ショー・クルーズにて。金曜の日没後にワイキキから上がる花火も楽しみだ。

オアフ島を象徴するワイキキビーチは誰もが一度は見たい絶景のひとつ。青い海の向こうにダイヤモンドヘッドがそびえる。

車いすをご利用の方が満喫したチャレンジングなハワイ旅行

ジャルパックが推進するアクセシブルツアー（ユニバーサルツアー）とは、お客さまの「旅行はしたいけれども不安なことがある」という悩みを解消し、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく楽しめる旅を目指した取り組みのこと。

お客さまが本当に何をしたいのかを追求し、より多くの旅の選択肢をご提供できればと、様々なアクセシブルツアーを行ってきた。沖縄本島での車いす対応リフト付きバスの導入以後、北海道でデュアルスキー（着座式スキー）体験ができる「車いすで雪あそびin旭川」などを実施、今年3月には「ファミリィで行く車いすde感じるハワイ」を実現させた。

「海外でもご家族と一緒にリゾートの旅を楽しみたい」というご要望に応じて作り直しました。そう話すのはツアー造成を担当し実際に同行したジャルパックの廣瀬恵。車いすご利用のお客さまにサーフィン体験をしていただくのが同ツアーの最大の魅力だ。

「アクセシブルツアーでは、必ずひとつ、お客さまにとってチャレンジングな体験を組み込むようにしています」

車いすご利用のお客さま一人にトレーナー二人が付き、サーフボードにはトレーナーとお客さまがタンデムで乗る。後ろに乗ったトレーナーが漕ぐので、お客さまは純粹に波乗りを楽しめる。担当の廣瀬も下見で体験し、その魅力と安全性を確認したそう。

「お客さまも心から楽しんでいただけたく、時間の許す限り海に入っていってほしいです。」

「もう一回やりたい！」という嬉しそうなお声が印象に残っています」

「ファミリィで行く車いすde感じるハワイ」は、サーフィン体験のほかにも、車いすのままイルカと触れ合えるドルフィン・アロハ、サンセット・ディナー&ショー・クルーズなど魅力的なプランが多い。さらにはバリアフリールームの確保、観光地までのリフト付きバスの手配、事前相談会の

開催などと、細部に渡って配慮が行き届く。

事前相談会は旅の不安をひとつずつ取り除くのが目的だ。実際に旅を終えたお客さまも「相談会で背中を押してもらって本当に良かった」と言ってくれたそう。

アクセシブルツアーは催行側も当初は手探りだったものの、お客さまとのコミュニケーションで年々進化を遂げている。お客さまはともかくアクティブで、純粹にハワイで何がしたいかを考えている。バリアに対して「できる方法があるはず」という前向きな姿勢は、ジャルパック社員にとっても学ぶことが多い。もしも参加するかを悩んでいるお客さまがいるならば、

その人たちにも安心して楽しんでいただけるツアーを作りたい。

ハワイツアーに同行したジャルパックの今井倫敦は言う。「砂浜を走れる太いタイヤの車いすをご用意して海に出た時、お客さまが『これでハワイに来てよかったかったことが全部できたよ』とおっしゃってくれて、私もとても嬉しく思いました」

ジャルパックではこうした経験をできるだけ多くのツアーに反映させたいと考えている。一般的なフリープランにも、もっと車いすの方も参加してほしい。そのため細かな情報をもっと発信したい。ジャルパックのツアーはそうして日々、進化を続けている。

株式会社ジャルパック ジャルパックの アクセシブルツアー

お手伝いを希望されるお客さまの
ご旅行相談サポート

【海外ツアー】 050-3164-1103
午前9時～午後5時（10月13日、12月31日～1月2日を除く）
www.jal.co.jp/tour/support/



※掲載ツアーに関するお問い合わせは
上記までお願いします。



ジャルパックは2019年度「JCSI（日本版顧客満足度指数）調査」旅行業種6指標すべてにおいて1位を獲得しました。



東京都が取り組む令和2年の「東京都『心のバリアフリー』サポート企業」に登録されました。